

# 2007 よかぜ No.18



定年後 どうなる どうする

特集

## 男の本音・女の本音

今、定年後の生き方が注目されています。あなたは定年後、何をしますか？夫婦でどう向き合っていけますか？市民の本音をインタビュー！



“いきいきライフ”  
あなたの今、そしてこれから...

★もくじ★

特集 定年後 どうなる どうする 男の本音・女の本音

最近考えたこと

Bookコーナー

朝霞市女性総合相談

いろいろ情報

あさか女と男セミナーを開催しました！

「そよかぜ」企画・編集委員より

# 定年後、どうなる？ 男の本音・女の本音

「いきいきライフ」 あなたの今、そしてこれから...

- 今までできなかった分、夫婦でゆったりと旅行がしたい。(48歳)
- 喫茶店orお団子屋さん経営をしたい。(48歳)
- 会社員ではなく、家族でコンビニ経営がしたい。(51歳)
- 田舎で畑を耕したい。(51歳)
- 近隣との付き合いを大事にして、いざという時に助け合える関係を作っていきたい。(52歳)
- 何でも今の延長だと思っているから、特別に何かはしていない。(52歳)
- アジアの会社で自分を試してみたい。(53歳)
- 料理を習って家族に食べさせたい。(54歳)
- 地域に貢献したい。10年前から将棋サークルに属し、大会等の手伝いをしており、それを続けたい。(54歳)
- できればゴルフ三昧の暮らしがしたい。(58歳)
- 畑を借りて野菜を作っているの、そこでの友達ができ、情報を交換したり、時には飲みに行ったりしている。定年後も寂しくないように続けたいと思っている。(61歳)
- 絵を描いているので、いずれ自宅に展示する空間を作りたい。(63歳)

## 定年後は何をやりたいですか？

- 病院でのボランティアをできるだけ続けたい。(48歳)
- 女友達と旅行に行きたい。(56歳)
- 稽古ごとでもして、友達を増やしたい。(56歳)
- やりたいというより、やるようになるのは孫のお守り。あてにされているし、娘の手助けをしてやりたい。(56歳)
- 健康が一番。体力作りと健康管理を気に掛けています。(56歳)
- 夫とは長く別居していて、一人でも老後が安心できるよう、一日でも長く働けるようにしたい。(56歳)
- 今やっている語学の勉強を続けて行く事です。(58歳)
- 今は簡単なリフォームをやりたい。(60歳)
- 自治体主催の催しや活動に加わりながら、地域の方と知り合い、何か地元で役立つ事を探したい。(60歳)
- 結婚する時の二人の合意で、国内外への旅行を頻繁に行ってきたが、定年後も続けたい。(60歳)
- 夫の定年後は、何をすることも便利なので、思い切って都心のマンションに引っ越しをする予定です。(65歳)
- 田舎育ちなので、庭の草取りとか家庭菜園なんかは今さらやりたくない。いろんな所に気ままに行ける生活がしたい。(65歳)

## 本音のホンネ？

定年後は、趣味や生涯を通しての学習をと思っていたので、これからは日本の古代史の研究や地元で役立つボランティアをしたい。妻に対しては、意識的に重荷とならない存在であることが大切。現在仕事を継続中なので、経済的不安はない。定年の充実感の方が、不安を超えている。(60歳男性)



## あなたは定年後、何をしますか？ 夫婦でどう向き合っていきますか？

ゴールデンエイジ(精神的に成熟した世代)に向けて、市民の皆さん(40代~70代)インタビューしてみました！

- 朝も昼も夜も食事の支度？一緒に食べるの考えられない！(47歳)
- 女友達と一緒にいる方が楽しいから、私は外に出る。(51歳)
- 夫は定年後も次の仕事に就き、時間的に楽になったので家事もよく手伝ってくれ、私も仕事をしているので、何の不安もない。(56歳)
- 特に問題はないが、あんまり話はしない。子どもも独立し、二人だけの食事はちょっと寂しい。猫がいるので助かっている。(57歳)
- 自営業なので共通の話題が多いので別に感じません。(58歳)
- 定年後、夫はアルバイト程度に仕事に行っているが、ずっと家にいるようになるかと思うとすごくストレスだろうと思う。(59歳)
- 夫は、NPO活動(介護補助関係)に力を入れている。私は、趣味と保育園児の孫に対する必要な時の育児補助と、夫と別々の所に視線がある。(60歳)
- 夫と別々の楽しみや活動を持ちながら、孫の世話と旅行は一緒と、現役時代と変わらない。一緒に時間が経つのは嬉しい。(60歳)
- 自分も夫も、やりたい事がいっぱいあるので忙しく、お互い干渉しないで楽しんでいます。(65歳)

## ◆妻の言い分◆

ずっと専業主婦だった私は、夫が「充分働いてきたので、定年後はもう働きたくない」と言っているの、年金をもらうまでの生活は不安です。夫とは、価値観や生活スタイルが似ているので、比較的楽な関係の夫婦だと思えます。その夫の両親を近年、次々と看取り、夫が思いのほか実家が大好きということを見つけて驚きました。ちょっと距離感を感じて、私は自分の実家のお墓に入ってもいいかなと、思い出しています。

## 定年後、夫婦でどう向き合っていきますか？

- 新しくは特にないけれど、今一緒にテニスをしているので、それを続けたい。(52歳)
- ずっと向き合ってるなんていやだ！用事を作ってなるべく外に出掛けるようにする。(52歳)
- 長年ゆっくりと会話をしていなかったの、会話を楽しみたい。(53歳)
- 互いに趣味の時間を大切にしながら、一緒に時間も大切にしていこう！(53歳)

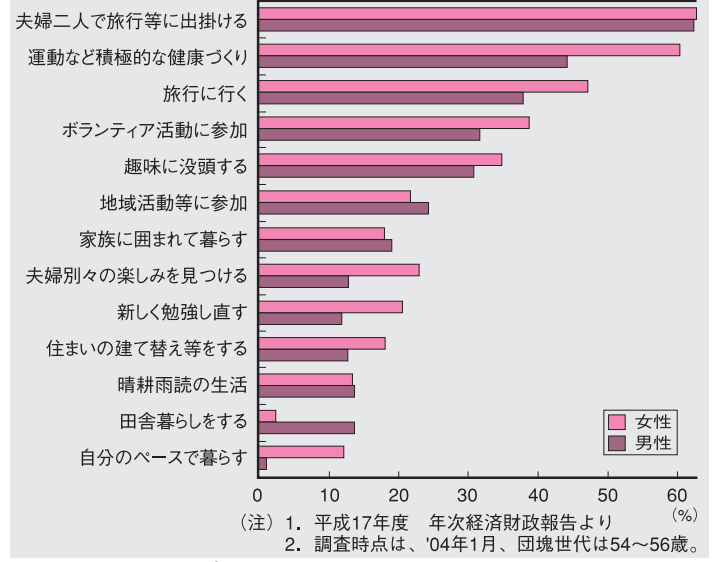
## ◆夫の言い分◆

まあなく、定年。一、二年は会社に残ることも可能ですが、企業で働くのはもういいかな、という心境です。妻はもう少し働いてほしいと言っています。一人息子も結婚し独立したので、少しのんびりしたいです。職業柄集まった蔵書がすごいことになってるので、少しずつ整理したり、近郊の川や森などに掛けて妻と共通の趣味である、バード・ウォッチングを楽しみたいと思っています。

## VS

59歳夫婦

## 団塊世代の定年後の暮らし方



## 定年後の経済設計は？

- 自営だから定年ってないんだけど、もし今の仕事ができなくなったらお店をやってみたい。(52歳)
- 年金生活したいが...定年延長を希望し、年金がもらえるまでしのご。(53歳、54歳)
- マンションを建てる。税金対策と定年後のために。(55歳)

## つぶやき

- オレオレ詐欺にはひっかからないわよ！(52歳)
- 元気でいたい。(58歳)
- 家に入り、家事等雑事に時間を取られることに驚いている。(60歳)
- 取締役をしている夫は外では偉いらしい。来春退職予定なので、外のままでの状態で家に居られたら、大変だなと思っている。(65歳)
- 持病がある夫の健康管理が難しい。元気で長生きしてもらいたい。飛行機事故か何かで二人一緒に死ねたらいいな、と思う。(69歳)
- 定年後、とてもおしゃべりになった夫とは、夕食後はそれぞれの部屋で好きな時間を過ごしています。一日中付き合っていると疲れるので。(72歳)
- 毎晩、寝る前に握手しています。次の朝会えなくなっているかもしれないので。一日一日がとても大事です。(75歳)
- 妻に先立たれ、独り身は寂しいよ!!(48歳)(54歳)
- 家の中に居場所がない！(53歳)

### 「第二の人生の現実と幻想」

結婚式の祝辞の挨拶で「三つの袋」の話を聞かれた事はありませんか？人生の先輩からのアドバイスとして、結婚生活を円満にするためには「給料袋」（お金）「お袋」（姑）「堪忍袋」（互いにかまっし合う心）の三つを大切にしなければなりませんよ、という教えです。給与も銀行振込みになって、「給料袋」を見かけなくなった現代は、どういう例えが変わるのでしょうか？

それはともかく、第二の人生を考える年代になっても、同じように「三つのK」で表せるキーワードがあるようです。それは「健康」「経済」「心」で、第二の人生を支えるポイントとも言えるでしょう。

最近の新聞で、こんな記事がありました。定年後夫婦の時間が増えることについて、40代〜50代の既婚男女516人に調査したところ、夫の48%が「嬉しい」

と答えたのに対し、妻は27%、「嬉しくない」は、夫が16%、妻は32%でした。「妻が老後の生活を前に現実的でシビア、夫は良妻賢母幻想にすがっている」という分析結果も出ています。

家を守り、夫の言葉には素直に従い、慎ましく良き妻、良き母として生きる良妻賢母が女性の鏡とされてきた時代は過ぎ去り、現代の40代〜50代の女性の多くは家計を助けるために仕事に出る、自分磨きのためにサークルやカルチャースクールに通うなど、ポジティブで行動力があります。そうした生き方や意識の変化に、男性の意識が追いついていないという現実が垣間見えるようです。

健康に気を配りながら資金的な準備も行い、人生に対する意欲に満ちた理想的な第二の人生を送るためには、パートナーへの理解や、互いに価値観を認め合う人間としての成熟といった課題もあるようです。

### BOOKコーナー



## 『あなたは老後、誰と、どこで暮らしますか』

オパールネットワーク代表 佐橋 慶女(編)



4000字のエッセイ  
応募作品の中から、  
2009名の「誰と、  
どこで暮らしますか」が  
語られています。

それぞれの人生があり、  
これからの私たちの人生  
にとっても参考になる  
と思います。

30代から80代までの方の作品は、「家とは」「夫婦とは」「子供とは」「どう生きたいのか」と自分に問いかけています。 文藝春秋社 ¥1,333

著者は、『おじいさんの台所』（文春文庫）で日本エッセイストクラブ賞を受賞したことをきっかけに高齢者問題に取り組み、中高年からの自立、自助の暮らしを提唱しています。（他に著書多数。）

## 悩める女性のために 朝霞市女性総合相談

家族間のもめごとや対人関係の悩み  
暴力や虐待、離婚問題など  
あなたの悩みや問題などに対して  
経験豊かな専門家が  
ご相談をお受けします。

相談日 毎週木曜日  
(祝・休日にあたる場合は前日)  
時間 午前10時〜午後3時  
場所 市役所1階 市民相談室  
問合せ 市民生活課男女平等推進係  
電話 048-463-2697 (直通)

\* 個人の秘密は守ります。 \* 相談は無料です。

## いろいろ情報

「日本女性会議2006 しものせき」  
に参加しました！



昨年10月6日(金)〜7日(土)の2日間、山口県下関市で行われた第23回日本女性会議に、朝霞市から3名が参加し、男女共同参画社会の潮流等について学びました。  
初日は、内閣府男女共同参画局長からの報告、東洋大学経済学部教授 白石真澄氏による講演等が行われ、男女共同参画社会をいかに進めていくか等について、現在の国の取組や企業の取組など、幅広い視野からお話を伺いました。二日目は、政策決定の場への女性の参画や地域づくりなど、テーマごとに12の分科会に分かれて活発な学習が展開された後、市原悦子氏(女優)による記念講演が行われ、4,000人を超える参加者を得た大会は、盛況のうちに幕を閉じました。  
\* 詳しくは、市役所をはじめ、市内各公共施設に設置している『日本女性会議報告書』をご覧ください。

### あさか女と男セミナーを開催しました！

11月8日(水)〜12月6日(水)まで、「平成18年度あさか女と男セミナー」(男女の輪が素敵な朝霞をつくる〜みんなで聴こう！話そう！そこから気づくことを大切に〜)を週1回の5回連続講座で開催しました。  
今年度は、夫婦や親子などさまざまな関係をコミュニケーションを通して見つめ直し、世の中に存在するジェンダーについて現状を聞き、一人ひとりの違いを認め合いながら、自分らしい歩みについて考えるセミナーとなりました。



### 「そよかぜ」企画・編集委員より

一年間、ありがとうございました。

阿部哲子、篠原操、茅根ひとみ、松村洋子

### 編集後記

ふと立ち止まって、来し方行く末を考える時間の大切さを感じます。  
力不足ながら、いろいろ勉強した二年間でした。  
委員達の人生・生活感も垣間見たりして、編集会議は楽しいものでした。委員に「応募を！」(丁)「学び続けろ！」(Pちゃん)コールをいただきました。